

美しい 県土づくりNEWS



2007 年

6月

岩手県県土整備部

手づくり広報誌 35号

平成 19 年 6 月 5 日発行

編集 県土整備企画室

目次

- 2 安全安心 みんなで防ごう土砂災害
- 4 産業振興 久慈港諏訪下地区に企業立地第1号
- 6 産業振興 建設業の経営革新をサポートします
- 9 施策の動き 都市計画課
- 11 地域とともに歩む鷹生ダム（後編）
- 18 パートナー紹介～萩街道を目指して～（県建設業協会）
- 19 いわてのまちづくり
地域通貨を活用した中津川の魅力づくりと街なか活性化事業
- 20 トピックス 築川ダムを中学生が訪問
- 21 お知らせ 早池峰ダムウォッチング 他
- 22 いわてまちづくり実践モデル事業を公募
- 24 6月は土砂災害防止月間

岩手の風景

緑に包まれた入畑ダム（北上市）

平成3年3月に完成し今年で17年目になる入畑（いりはた）ダムです。周辺には夏油温泉のほか多数の温泉と夏油高原スキー場があり、四季を通じて楽しむことができます。今は、緑がとてもきれいです。



入畑ダムは、北上川水系夏油川に位置し、洪水調節、水道用水、工業用水、発電などの役割を担っています。



みんなで防ごう土砂災害

6月は土砂災害防止月間です

砂防災害課

TEL 019-629-5921

「土砂災害防止月間」とは、昭和57年7月豪雨（長崎大水害）を契機として、建設省（現国土交通省）が昭和58年に制定したもので、土砂災害防止に関する様々な運動・行事を通して、土砂災害防止に関する国民の理解と関心を深めるために全国一斉に実施しています。昨年の梅雨期の自然災害で亡くなった32名のうち、21名が土砂災害によるものであり、土砂災害防止への理解が求められています。

平成19年度は、人命、財産の被害の防止を目的に、砂防施設整備等のハード対策の推進、警戒避難体制の強化等のソフト対策の推進を図るため、次の事項に重点をおき取り組みます。

担当者

砂防災害課 砂防担当
主事 細矢 和男
花巻市出身

絵画・ポスター・作文
募集中です！



1 住民と行政による土砂災害危険箇所の点検活動強化

地域住民、砂防ボランティア、県職員、市町村職員により土砂災害危険箇所と避難経路の点検をします。

2 災害時要援護者関連施設への対応

老人ホーム、病院など災害時要援護者関連施設への説明会や危険区域図の配布等により、土砂災害の危険性について周知します。

3 土砂災害に対する全国統一防災訓練の実施

土砂災害に対する警戒避難体制の強化を図るため、県と市町村、気象台等の関係機関や自主防災組織と連携して、住民参加の土砂災害に対する防災訓練を実施します。

（この一環として、5月23日に情報伝達訓練、5月27日に釜石市実働訓練を実施しました。）

4 土砂災害防止研修会の実施

県・市町村職員の防災・砂防担当者及び砂防ボランティア等を対象に、土砂災害に関する啓発を目的とした研修会を実施します。

(1) 期日 平成19年6月19日（火） 13:15～16:45

(2) 会場 盛岡市勤労福祉会館

5 教育関係者等への広報活動の強化

次代を担う小学生を対象に、土砂災害・火山・砂防えん堤の役割等について理解や関心を深めてもらうために岩手河川国道事務所と協働で現地見学会を実施します。

(1) 期日 平成19年6月15日（金）

(2) 場所 雫石町御神坂^{おみさか}沢等 ※去年の災害は、P24 に掲載

6 広報活動の推進

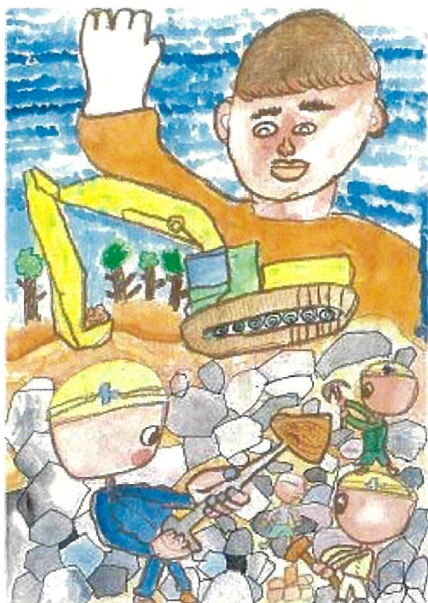
ポスターの掲示、関係住民へのパンフレット等の配布、テレビ及びラジオ放送により土砂災害からの早めの避難を呼びかけます。

7 平成19年度絵画・ポスター・作文の募集

県内の小・中学校を対象にして、絵画・ポスター・作文を募集しています。

(募集期間平成19年6月1日～平成19年9月15日)

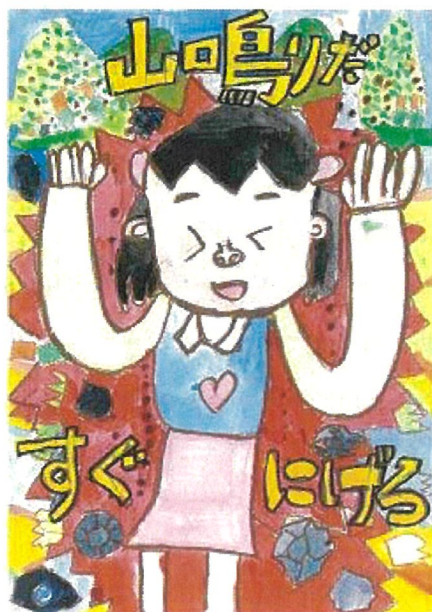
昨年度は、県での地方審査会に 202 点の応募があり、全国審査会で国土交通省事務次官賞に2点、砂防部長賞に1点が入賞しています。



小学生絵画部門
国土交通省事務次官賞
奥州市立佐倉河小学校
3年生 青野 莉花 さん



中学生ポスター部門
国土交通省事務次官賞
一関市立花泉中学校
3年生 及川 拓也 さん



小学生ポスター部門
砂防部長賞
奥州市立佐倉河小学校
3年生 箱崎 香澄 さん

産業振興 久慈港諏訪下地区に企業立地第1号

港湾課

TEL019-629-5912

県では、久慈港の臨海地区における企業誘致を図るため、平成19年2月に、諏訪下地区に4haの工業用地を用意しました。

ここに企業立地第1号として、普代村に本社を置く海産物加工の㈱マルサ嵯峨商店が、新工場を建設することになりました。

同社は、久慈市の水産加工団地内に工場を有し、近隣の漁協などから仕入れたサケ、イクラなどの海産物を加工し首都圏などに販売していますが、今回、主要魚種である秋サケの加工能力を拡大するため、秋サケ専門の新工場を建設することとしたものです。

新工場の立地については、昨年の8月に同社の嵯峨社長から県に打診があり、今年の4月26日に、県と同社との間で工業用地の土地売買契約の締結にいたり、5月7日には、嵯峨社長と久慈市長による企業立地調印式が行われました。

新工場は、5,000㎡の工業用地に、約2億5千万円を投資して、床面積約1,730㎡の鉄骨2階建ての工場棟と排水浄化施設を建設するほか、凍結庫2基、冷蔵庫1基を設置するもので、5月に着工し、9月に完成、操業を開始する予定です。

同社の操業に伴い、当初は新規採用11名を含む41名を雇用し、2年後には、新規採用19名を含む69名を雇用する計画となっており、地域の雇用の場として期待されています。

自治体の支援として、県は不動産取得税を免除、事業税を3年間免除（その後2年間は1/2課税）し、市は固定資産税を3年間免除（その後2年間は1/2課税）するほか、県と市合わせて投資額の20%を補助する予定です。

これを契機に同地区への企業立地に弾みがつき、更なる雇用の拡大につながることが期待されています。



新工場立地予定場所（赤色部分）



新工場建設工事風景

産業振興

建設業の経営革新をサポートします

建設技術振興課

TEL 019-629-5954

建設業は、社会資本整備の担い手であるだけでなく、多くの就業機会を提供するなど、地域の経済・社会の発展に欠かすことのできない大きな役割を担っています。

しかしながら、建設投資の急速な減少などにより、県内建設業は厳しい経営環境に直面しています。

県では、国や建設業界等の関係機関と連携しながら、建設企業の経営革新への取組みを積極的に支援しています。

☆建設業の経営革新の考え方☆

1 経営基盤強化タイプ

数社の連携によるIT導入や海外からの資材調達による抜本的なコストダウンなど、**本業を中心に経営基盤を強化する競争力・成長力を高める取組み**

2 新技術開発タイプ

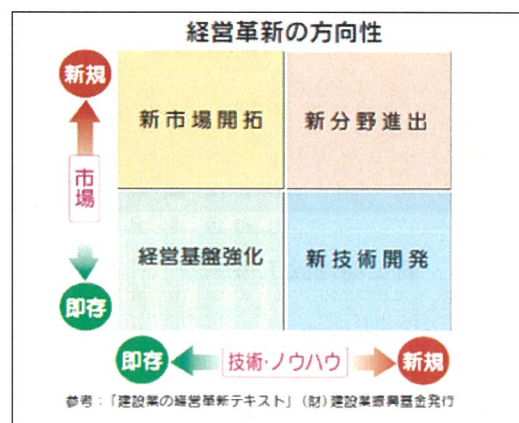
発注者や顧客にこれまで提供してきた商品・サービス以外に、**新たに提供できる技術・ノウハウの開発・獲得など他社と差別化できる事業に取組むもの**

3 新市場開拓タイプ

これまで建設業界で長年培ってきた自社の技術・ノウハウをベースに、**新しい市場や顧客を開拓していくもの**

4 新分野進出タイプ～

既存事業とは異なる市場も技術・ノウハウも新規の領域に取組むもの



☆経営革新についての相談☆

「経営支援センター」(社団法人岩手県建設業協会設置) 又はお近くの「建設業総合相談センター」(県設置) にご相談ください

【相談内容】

- ・ 一般企業相談 (窓口紹介・経営・事業導入など)
※企業訪問も実施しています。
- ・ 新規事業実施に係るコーディネート (マッチング・情報提供・運営管理など)
- ・ 講座・フォーラム等の企画および実施
- ・ 関係機関との交渉・関係者間の調整など

経営支援センター (窓口：社団法人岩手県建設業協会内)

盛岡市松尾町 17-9 岩手県建設会館 3 階

TEL 019-653-6111

建設業総合相談センター (窓口：広域振興局等土木部内)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ◆盛岡地域 019-629-6636 | ◆花巻・遠野地域 0198-22-4971 |
| ◆北上地域 0197-65-2738 | ◆奥州地域 0197-22-2881 |
| ◆一関・千厩地域 0191-26-1418 | ◆大船渡地域 0192-27-9919 |
| ◆釜石地域 0193-25-2708 | ◆宮古地域 0193-64-2221 |
| ◆久慈地域 0194-53-4990 | ◆二戸地域 0195-23-9209 |

【主な支援制度】

建設業新分野進出等支援対策事業

【概要】 新分野進出等に必要な経費の一部を補助する事業

【内容】 1 件当たり 100 万円を上限

- ・ 製品・技術・サービスの研究開発：経費の 1/2 以内
- ・ 販路開拓：経費の 2/3 以内
- ・ 人材養成：経費の 2/3 以内

※平成 19 年 6 月 29 日まで申請を受付中

(詳しくは経営支援センター又は建設業総合相談センターへ)

※各種支援制度は、「建設企業経営革新サポートガイド」でご紹介しています(経営支援センター及び建設業総合相談センターの窓口で配布しています)。

建設業経営支援アドバイザー事業

【概要】 経営方針、財務分析、営業力強化、人材育成等の相談を希望する方に、中小企業診断士を派遣

【内容】 ご相談は、1 回 3 時間程度・2 回まで無料



県内においても、新技術・新工法の開発、自社の得意分野を活かした新市場開拓、経営資源を活用した新分野進出などの経営革新の取り組みを始めている企業もすでに多く現れています。

(主な事例)

新技術・新工法の開発	新市場開拓・新分野進出（サービス）
(株)バウハウス（盛岡市） SIRC（無機質結晶増殖型注入材）工法（コンクリート構造物の亀裂等に注入し長期維持する工法）	(株)杉山組（大船渡市） 資産形成コンサルティング 医療福祉関連事業等の開業支援サービス
	
新分野進出（農業）	新分野進出（福祉）
丸正建設(株)（平泉町） 花（りんどう）、米、有機野菜の栽培販売	旭ボーリング(株)（北上市） 高齢者福祉施設「ほっと東館」（温泉を利用したデイサービスセンター等）経営
	

※参考：建設業新分野進出等表彰事業より

上記も含め、県内の先進事例をまとめた「建設業新分野・新事業事例集」を作成しました。広域振興局等の土木部、岩手県建設業協会各支部でご覧いただけるほか、ホームページにも掲載しています。

(<http://www.pref.iwate.jp/~hp0610/>)





☎ 019-629-5887

都市計画課では、県民のみなさんが都市計画やまちづくりに関心を持ち、積極的にまちづくりに参加できるよう、主に次の取り組みを進めています。

H19年度

(1) 都市計画法改正等への対応

昨年度改正された都市計画法が、11月30日にいよいよ全面施行されます。今回の法改正の目的は、人口減少・高齢社会・環境問題といった私達が抱える様々な課題の解決につながるものとして期待される、**コンパクトなまちづくり（集約型都市構造）**を実現することにあります。

都市計画課では、岩手県のまちづくりの方針をこれから本格的に検討するため、岩手県都市計画審議会に「**社会情勢の変化に対応したまちづくり専門小委員会**」を設置しました。

5月30日に第1回を開催しましたが、会議の様子は、各回終了後、都市計画課のホームページで公開する予定です。ぜひご覧ください。

(2) 美しいまちづくりの推進

■ 「景観からの地域づくり(景観点検)」

県民共有の財産である景観の価値を見つめ直し、より美しい景観を創造するため、身近な地域の景観を点検します。過去**3**年間の取り組みは一定の成果を挙げており、景観に対する意識も着実に高まりつつあると実感しています。

4年目を迎える今年度は、**景観点検を行った団体が、点検活動終了後も、継続して景観づくりに取り組める仕組みを新たに導入したこと**から、景観づくりの取り組みをさらに広げていくことができるのではないかと期待しています。

■ 「いわてまちづくり実践モデル事業」

詳細については、**19ページ**をご覧ください。

■ まちなみ清爽隊」の活動

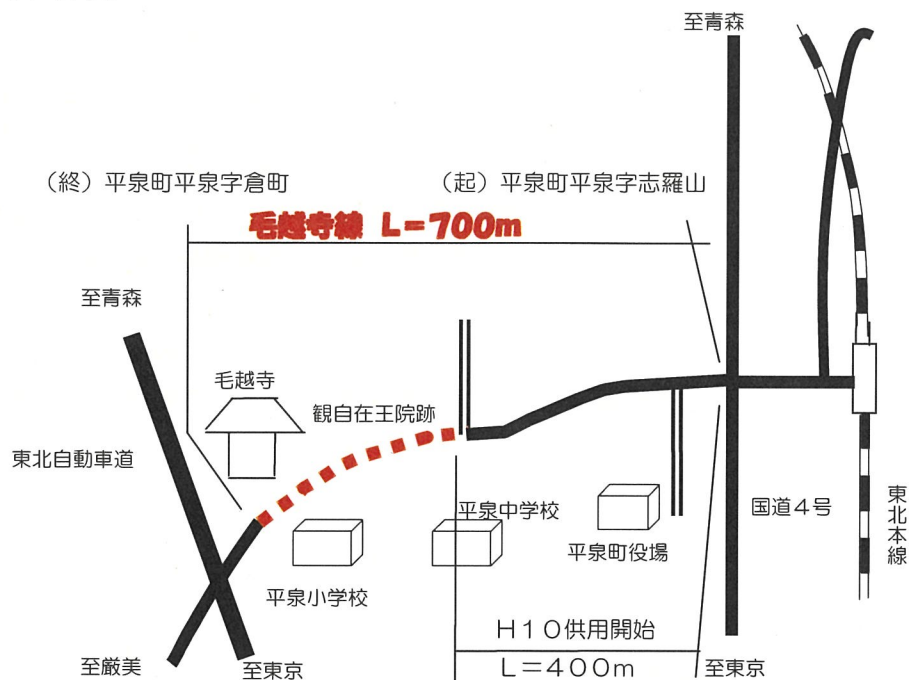
私達の身の回りにある屋外広告物のうち、**県内だけで、屋外広告物条例に違反した広告物が約1万件もあること**をご存知ですか？また、今話題となっている平泉の世界遺産登録に向けた動きの中でも、こうした違反広告物が、平泉の景観の価値を損なうものとして問題とされています。

「まちなみ清爽隊」は、ボランティアのみなさんが、これらの違反広告物のうち、電柱などに貼られた貼り紙を取り除く活動を行っています。

(3) 産業振興の支援

県内各地で、産業振興を支援するための街路整備に取り組んでいます。

中でも、年度内の完成が予定されている**都市計画道路毛越寺線（志羅山）**の整備区間の一部は、都市平泉の機軸であった大路跡（おおじあと）と重複しており、また、毛越寺等の世界遺産推薦予定地が隣接していることから、**歴史的景観に配慮したみちづくり**を目指しています。



■南側から見た広場と曲線部分のイメージ

地域とともに歩む鷹生ダム（後編）

鷹生ダム建設事業を振り返る

後編では、平成 11 年 4 月から完成までを振り返ります。

前編は、5 月号（<http://www.pref.iwate.jp/~hp0600/npo/index.htm>）をご覧ください。



鷹生ダム全景

自然との共生・地域と歩むダム造り

本体工事が順調に進行していた平成 11 年 4 月、鷹生ダム建設事務所に、所長として赴任した村井研二（むらい けんじ）は、ある問題にぶつかっていた。それはコンクリート運搬設備の形式についてだった。通常ダム建設ではケーブルクレーンを採用しダムコンクリートの打設を行うが鷹生ダム周辺は県立自然公園に指定されており美しい自然環境が広がっていたこと、また、ダム現場周辺にイヌワシの生息が確認されイヌワシの飛翔に影響がある恐れが考えられた。

この問題は、施工会社である清水建設からのある提案で解決の方向に動き出した。それは新たなコンクリート運搬設備「槌型クレーン（ライジングタワー）」の開発である。このクレーンは、ビルを建設するときに用いるタワークレーンと水平移動の機能を持つテルハクレーンを足したイメージで、横から見ると「T」の形に見えることから槌型クレーンと呼んでいた。

このクレーン形式は世界に類を見ないもので導入にあたっては幾多の協議を重ねた。一度は不採用となったものの、村井をはじめとする建設事務所職員及び施工会社の一体となった技術開発により採用が決定した。

このクレーンの導入により山肌を削ることなくコンクリート打設ができること、イヌワシの飛翔に限りなく影響を与えなくなることとなった。

この他にも周辺環境及びイヌワシの生息に配慮し、原石山発破の期間制限、仮設備の騒音対策、仮設備の塗装色（緑色）の統一など出来る限りの対策を行った。



工事関係者は 1000 人以上。工事中は無事故でした。



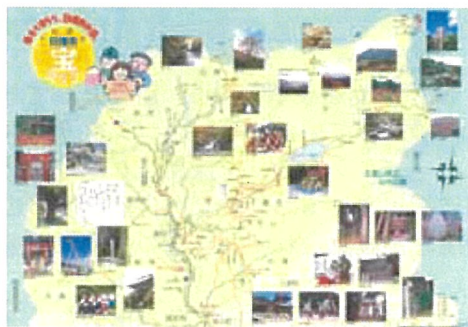
槌型クレーン（ライジングタワー）

次に村井は振興局・市役所・地域住民による「ダムを核とした地域づくり」に取り組んだ。当時ではまだ珍しかったワークショップを開催し、モデルコミュニティ計画の策定とその実践に取り組んだ。

貯水池上流の建設発生土受入地法面への植栽は地元住民をはじめ約 400 人が参加した。

また、日頃市地区公民館創設 50 周年記念事業とタイアップして日頃市町の「宝」を紹介する冊子の作成や場所を案内する案内板等を設置した。住民が主体となって行う地域づくりが見事に成功した。

村井は、槌型クレーンと住民主体となった地域づくりという大きな産物を残し平成 14 年 3 月大船渡市を去った。



日頃市「お宝マップ」



地域のお宝「長安寺」と「小通鹿踊り」



地域住民が参加した植樹会

食テーマに地域づくりを継承

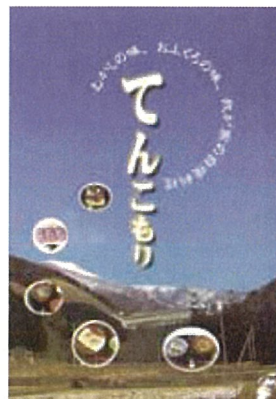
平成 14 年 4 月、菅原佐（すがわら たすく）は、鷹生ダム建設事務所に着任した。菅原は、前任所長の村井が残っていた地域づくりの締めくくりとなる「食」をテーマとした地域づくり活動を行うことにした。

食は一部の人たちが参加するだけでなく、生活の主役である女性が参加できることもあり地区全体で取り組める絶好のテーマであった。料理作りを教えてくださいと年配女性からは、「初めてこのような地域の行事に参加し感激した」との感想があった。埋もれていた人材の掘り起こしに成功した瞬間だった。この「食」をテーマにした取り組みは、後に地域住民を中心とした組織に取りまとめられ、冊子として発行されている。

菅原は、1 年間の在籍ではあったが地域づくりの継承役を果たし平成 15 年 3 月大船渡市を後にした。



レシピ作りに参加した皆様



レシピ集「てんこもり」

総貯水容量 968 万 m^3 ・試験湛水を開始

事業スタートから 15 年目を迎えた平成 15 年 4 月、小松勝治は所長として鷹生ダム建設事務所に赴任した。本体工事は最盛期を迎え順調に工事は進んでいる。事業完了年度がすこしづつ近づいてきていた。「本体工事は順調だが、水が溜まるか・・・。」一抹の不安があった。

平成 16 年 6 月 18 日、本体コンクリートの最終打設を行った。待ち望んでいた最終打設には、地域住民をはじめ多くの人々が駆け付け雄雄しく迫力に満ちたダム堤体の概成を祝った。



本体コンクリート最終打設式

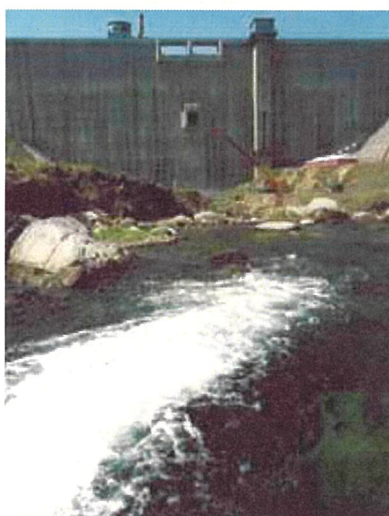
事業完了まであともう一步というところまで来た。あとは、仮設備などの撤去、周辺環境整備、そして試験湛水を終了すれば事業完了となる。「もうひと踏ん張り」小松は決意を新たにした。

平成 17 年 5 月 11 日、試験湛水を開始した。総貯水容量 968 万 m³ のダムに満々と水をたたえ、ダムの安全確認を行う試験である。試験湛水用ゲートが下ろされ、下流河川に必要な水量を放流しながらの試験湛水。早く貯まって欲しい。そう願うしかなかった。

しかし、小松の心とは裏腹に晴天ばかりが続く。「少しの雨でもいい。降ってくれないか・・・。」日に日にあせりを感じてきた。少しでも水を貯めようと細かい放流調整を行ったりもした。しかし計画に対して一向に追いつかない状況が続いた。最終的には国に認可された試験湛水計画の変更も行った。

小さな努力が実ったのか、徐々に計画に追いついてきた。「この調子なら平成 18 年度中に最高水位に到達できる。」小松は確信した。

小松は、本体工事の概成を見届け、事業完了年度内の最高水位到達を確実なものとして平成 18 年 3 月、充実した大船渡市での 3 年間の勤務を終えた。



湛水開始



H17.10 ヤマメの稚魚を放流



H18.6 あゆを放流

最高水位到達に歓声・鷹生ダム完成

平成 18 年 4 月、佐藤憲史（さとう けんし）は鷹生ダム建設事務所に赴任した。所長としては 9 代目となっていた。佐藤としては、事業最終年度ということ、試験湛水の真っ最中ということもあり、ゆったりしている時間は無かった。ダムの最高水位まで水位を上昇させ、安全を確認した上で徐々に水位を降下させていく大きな仕事が続いていた。

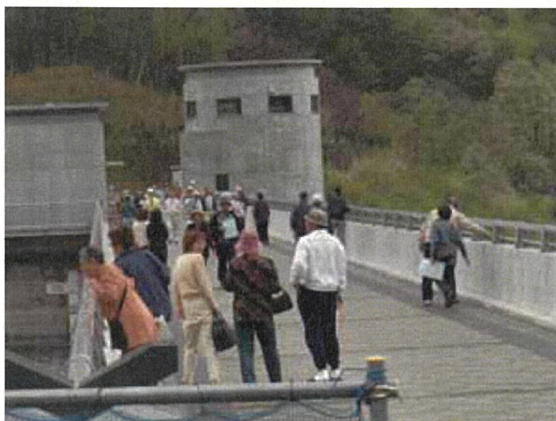
平成 18 年 5 月 10 日午前 10 時 3 分、鷹生ダムはダムの最高水位に到達した。数日前から河川からの流入量を見て、何度もシミュレーションを行い、到達時間は午前 10 時に設定していた。その差 3 分。奇跡だった。佐藤をはじめ建設事務所員全員が喜んだ。

最高水位の到達は、100 年に 1 度の確率でしか見られない光景とあって地元からたくさんの見学者が訪れた。「わあー、大きいね！」「すごいね！」来る人一人ひとりが普段目にすることの出来ない雄大な光景に驚いていた。中には湖面を見つめて涙を流しているお年寄りもいたという。

その後 24 時間水位を保持したまま安全確認の作業を行った。「異常なし。」鷹生ダムが効果を発揮した瞬間だった。



最高水位（サーチャージ水位）のダム湖



見学者は 2,006 人訪れました。

鷹生ダム永遠なれ

平成 18 年 10 月 26 日、鷹生ダム竣工式が国土交通大臣、岩手県知事、岩手県議会議長をはじめ出席し挙行された。建設採択から 18 年。長い道のりだった。鷹生ダム建設事業に携わった歴代の職員は計 64 人。この職員数を見ても長い道のりであることが伺える。その晩は歴代職員の苦労を称え、また、竣工式を見届けることの出来たことを祝った。同時にこのメンバーとの別れも近づきつつあった。



記念碑除幕



テープカット

平成 19 年 3 月、鷹生ダム建設事務所内は書類の山となっていた。事務所閉所に伴う書類整理を行っていた。「長期間の事業だから書類がいっぱいだね」通常事務と同時に行う書類整理。これが終われば一切が終了する。なんとなく寂しい雰囲気になった。

建設事業が終わっても、鷹生ダムと建設事業中に培った地域との絆は永遠に残る。これまでより更に日頃市地区の地域づくりが進んでいけばいいとメンバーみんなが思っている。

平成 19 年 3 月 30 日、閉所式が開催され大船渡地方振興局長廣田淳と佐藤憲史所長の手によって事務所入り口の看板が取り外された。18 年間に及ぶダム建設事業を展開した職場は、幾多の困難を乗り越えて鷹生ダムを誕生させる原動力となった。

鷹生ダムは、公募で決定したダム湖名「五葉湖」の愛称を携えながら、地域のシンボルである五葉山とともに大船渡地域の多くの人々の生活を見守っている。



看板取り外し



関係者集合写真



歴代所長と鷹生ダム完成見学

旅立ち

鷹生ダム建設事務所閉所に伴い、職員全員が次の勤務地へ赴任した。道路事業・河川事業・砂防事業・下水道事業・ダム事業・漁港事業とさまざまな分野へ旅立っていった。別れても個々が考えていることはひとつ。「県民の幸せ」である。

「またいつか一緒に仕事をしよう」職員一人一人がこの言葉をかけて旅立った。(完)

編集：前鷹生ダム建設事務所（現釜石地方振興局水産部）技師 藤原 慎



パートナー紹介

～萩街道を目指して～ (社) 岩手県建設業協会一関支部

平成 19 年 5 月 11 日、主要地方道平泉厳美溪線において、(社) 岩手県建設業協会一関支部による萩の植栽が行われました。宮城野萩 200 本、白萩 100 本、山萩 100 本の 3 種計 400 本の萩を、協会会員 33 社の社員が植えました。



(道の駅厳美にて開会式)



(萩の苗)

【宇部支部長 (宇部建設㈱) から】

- ・「市民と歩む建設業」を目指して地域での活動を行っている。
- ・須川～厳美～中尊寺～猊鼻溪をつなぐ観光ルートの一環であり、今回の萩の植栽も、世界遺産となる平泉遺産の礎となるものである。
- ・色々なことを展開し、「建設業もがんばるなあ」というところを県民へPRしていきたい。

【松川一関総合支局長から】

- ・平泉厳美溪線は平泉～厳美溪～骨寺荘園をつなぐ観光ルートであり、道路景観上そして世界遺産登録からみても萩の植栽の意義はとても大きいものです。
- ・世界遺産登録を地域振興にどう結びつけるかが重要であり、萩街道が地域に愛される街道になることを期待しています。

まだまだ小さい萩ですが、しっかり土に根付いて、しっかり地域に根付きますように…。



【植栽の様子】



【植栽後】

都市計画課発！いわての“まちづくり”って、 色んな種があるんですね。

～平成18年度「いわてまちづくり支援事業」から～

先駆的な市民団体、NPOの「まちづくり活動」を5回シリーズで紹介します。第3弾

地域通貨を活用した 中津川の魅力づくりと 街なか活性化事業

NPO法人もりおか中津川の会

■ こんな事業です(事業概要)

◇きっかけ◇

- * 「郊外部への市街地拡大が急速に進展し始め、中心市街地の空洞化も顕在化しているのではないか?」「商店街の人たちだけではなく、行政や市民が一体となって、街なかの魅力創出に取り組めないか?」
- * こう考えた中津川の会では、盛岡市のシンボル中津川を利用した街なかの魅力づくりに取り組みはじめました。

◇事業の内容◇

- * 中津川のボランティア活動(清掃活動等)を企画し、ボランティア参加者に地域通貨「かじか」を配布。
- * 地域通貨は、近隣商店街の協賛店で使うことができ、中津川の魅力づくりと街なかの活性化を図りました。

■ ここが事業のアピールポイント

- * 「中津川の魅力づくり」と「中心市街地の活性化」という課題は、一見して、それほど関係が深くないような感じがします(実は、まちの魅力づくりと、そのまちを流れる川の魅力づくりは深い関係があるのですが・・・)。
- * この事業は、地域通貨を利用することにより、2つを結びつけ、両方の課題を少しずつですが、より良い方向に向けることができたと考えています。
- * 他の地域でも、こういう手法を利用して、街なか活性化と何かをつなぎ合わせることができるかもしれません。

■ もう少しこうやっていたら・・・(反省点)

- * 協賛店は 42 店。いろいろな魅力ある店をそろえることはできましたが、地域通貨の利用が今ひとつ伸びませんでした。「遠慮してしまう」「普段買い物で使用しているスーパー、デパートで使えるようにして欲しい」という声がありました。地域通貨を定着させるためには、使いやすさがポイントかもしれません。
- * この地域通貨運用の資金を今後どのように調達するかが課題です。



ボランティア活動(橋洗い)の様子



配布した地域通貨「かじか」

[問い合わせ先] “ 地域における地域主体のまちづくり、まち育て!”

★ 岩手県県土整備部都市計画課 まちづくり担当 電話：019-629-5892 FAX：019-629-9137

〒020-8570 盛岡市内丸 10-1 E-mail: AG0007@pref.iwate.jp

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0604/01machi/machi/machitop.htm>

TOPICS

筑波大学附属駒場中学校が築川ダムを訪問！

築川ダム建設事務所

Tel 019-652-8821

5月23日

筑波大学附属駒場中学校の生徒が校外学習として、築川ダム建設事業の学習に訪れました。一行は、中学3年生の5人で、盛岡駅から乗合バスを利用してやって来ました。

子供たちと応対した職員との自己紹介の後、「なぜ築川ダムをテーマとして選んだか」聞いたところ、「環境保全と言う大きなテーマの中で、築川ダムの情報を得たことが契機となった」とのこと。

説明の中では、「ダムを建設しようとした理由は何か」、「環境保全の具体的な取組み」、「住民への対応」など様々な質問を受け、応対した職員としても大いに勉強になりました。

その後、最盛期を迎えている付替道路の工事現場を案内しました。まばゆいばかりの新緑の中、山間に調和した橋梁やトンネルなどを見学した生徒たちは、感動を隠しきれない様子でした。

帰京後は、今日の学習成果を友人や家族らにも話していただき、築川ダムの建設事業のより一層の理解とともに、自然環境に配慮した取組みをPRしていただくようお願いしました。



座学に臨む生徒ら



ダム建設に伴い新たに付け替えられた国道の橋の上で

早池峰ダムウォッチング2007を開催 参加者を募集中

早池峰ダムでは、ダムの働きや目的について、多く皆様に知って頂くため、毎年見学会を行っています。開催日時等は次のとおりです。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

◇開催日時

第1回目 平成19年6月17日(日) ①午前の部 10:30～ ②午後の部 13:00～

第2回目 平成19年10月28日(日) ①午前の部 10:30～ ②午後の部 13:00～

所要時間は約1時間。

時間までに早池峰ダム管理所前に集合してください。

◇参加費無料、事前の申込みは不要です

◇見学コース ダムの中の点検通路を通して県営の早池峰発電所まで案内します。

早池峰ダム管理所前→堤体ダム天端→堤体ダム左岸入り口→ダム底内部→早池峰発電所内部(岩手県企業局)→エレベーター→堤体ダム天端→解散

歩きやすい履物と上着のご準備を！

約250段の階段を歩きます。ダムの点検通路は気温が低いです。



問い合わせ 花巻総合支局土木部 TEL 0198-22-4971

県立花巻広域公園県民ゴルフ場の夏季限定謝恩特別料金のお知らせ

6月1日から9月30日まで、夏季限定謝恩特別料金を設定いたしました。さらに利用しやすいゴルフ場となりましたので、是非ご利用ください。

☆夏季限定謝恩特別料金(6月～9月)☆

平日 **4,100円**

土日祝 **5,100円**

※ 手動カート代・利用税・保険料込み(電動カート使用別途料金)

☆薄暮プレー☆

平日 **2,600円**

土日祝 **3,600円**

15:00以降受付は、更にお安く

平日 **2,100円**

土日祝 **3,100円**

※65歳以上の方は、更にお安くなります。



問い合わせ 県民ゴルフ場 TEL 0198-27-3280

いわてまちづくり実践モデル事業 公募

～ 地域のまちづくりのモデルを募集します！ ～ 都市計画課

1. 事業の趣旨

この事業は、県内の先駆的な「まちづくり」の実践を取り上げ、モデルケースとして県内の市町村や住民団体に広く発信することを通じて、県内の「まちづくり」の活動が活発になるよう応援するものです。

現在、モデルケースとなり得る事業案を持つ団体（住民団体やNPO法人、商工団体等）を公募しています。

2. 事業の内容

(1) 公募する事業の内容

「まちづくり」実践として次のジャンルのものを公募します。地域の課題に密着した、地域住民による个性的で、具体的な成果を示すことのできる「まちづくり」実践の案を期待しています。

- ・ 歩いて暮らせるまち
- ・ ひとにやさしいまち
- ・ 活力あるまち
- ・ ふれあいの交流があるまち
- ・ 自然と共生するまち
- ・ 安全・安心なまち
- ・ 個性豊かで美しく愛情と誇りを持てるまち

(2) 応募資格

地域住民による任意団体、NPO法人、各種団体等

※NPO法人以外の団体については、一定の要件があります。

(3) 事業費

1件当たり100万円程度で、県内3件程度

(4) 事業費の内訳

事業実施に伴う経費を県が委託料として負担します。

※費目によっては、団体負担となるものもあります。

(5) 実施期間

契約の日（8月頃）から平成20年2月28日まで

3. 選考方法

実地調査等を行い、選考委員等による審査を経て実施団体を決定します。（7月）

4. 応募手続

申請書を市町村の担当課へ提出し、市町村長の推薦書を添えて提出してください。（郵送可）

◇募集期間 平成19年5月28日（月）～平成19年6月22日（金）（市町村締切）

◇応募（問い合わせ）先 岩手県県土整備部都市計画課 まちづくり担当 作山・小笠原

〒020-8570 盛岡市内丸10-1 電話 019-629-5892 Fax 019-629-9137

E-mail: AG0007@pref.iwate.jp

5. その他

申請様式ほか詳細については、「いわてまちづくり実践モデル事業」の募集要項、又はホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0604/01machi/machi/matisien/matimodel.htm>

なお、昨年度、本事業は、「いわてまちづくり支援事業」として実施しました。委託を受けた個々の団体の活動は、次ページをご覧ください。

いわてまちづくり支援事業 平成18年度事業概要

中津川でのボランティア活動（盛岡）



地域通貨による中津川の魅力づくりとそれによる商店街の活性化のきっかけづくり

松園地区のワークショップ（盛岡）



松園ニュータウンの再生・活性化にはどうしたら良いか話しあったワークショップ

中心市街地活性化の取組み（花巻）



花巻市の土沢商店街の今後を考えたワークショップの様子

観光統一サインのモデル（花巻）



サインのモデルを設置することで、課題を提起

市民参加のライブ（北上）



市民の力による公共施設の魅力づくりと雰囲気の醸成

◎平成18年度実施事業一覧

	盛岡市	盛岡市	花巻市	花巻市	北上市
事業名	松園ニュータウン再生・活性化に関する調査事業	地域通貨を活用した中津川の魅力づくりと街なか活性化事業	土沢中心市街地活性化ビジョンづくり連続セミナー及びワークショップ事業	はなまき観光客に優しい街づくり事業	芸術イルミネーションパーク整備事業
団体名	生活支援サービス産業まちづくり研究会	NPO法人もりおか中津川の会	東和町土沢商店街連合会	観光客に優しい街づくりをする会はなまき	NPO法人芸術工房
事業の目的	高齢化に伴う新たな生活ニーズに対応したサービス産業の可能性を探る。	魅力ある川づくりと、近隣商店街の活性化を図る。	今後の土沢商店街とそれを構成する個々の商店のビジョンを作成する。	観光サインの統一による観光客に優しい街づくりを推進する。	市民の力による公共（芸術）施設の魅力づくりと雰囲気の醸成。
事業概要	ワークショップ、セミナー、ニーズ把握のための調査	ボランティア活動の企画、ボランティア参加者への地域通貨配布	セミナー、ワークショップ	オリエンツールイン、セミナー、看板公募、ホームページ開設	ワークショップ、イルミネーションライブ

今月の月間

6月は『土砂災害防止月間』です！

土砂災害には「土石流」、「地すべり」、「がけ崩れ」があります。

平成18年の1年間だけで全国1,441件もの土砂災害が発生しており、25名の死者・行方不明者が出ています。

写真は、平成18年8月18日に岩手県雫石町御神坂沢（おみさかさわ）で発生した土石流です。

画面下半分は道路なのですが、完全に土砂に埋まってしまっています。土石流にまきこまれた方は軽傷を負いましたが、軽傷は奇跡的としかいえません。



土砂災害から命を守るのは「早めの避難」です。

土砂災害警戒情報や雨の様子・前兆現象（山鳴り、沢水の濁り等）に注意し、自主的な避難を心がけましょう。

問い合わせ

砂防災害課 Tel019-629-5921

お知らせ

これまで、県政提言を集めた「みんなの声」を掲載してきましたが、今月号から、ホームページをご紹介しますことにしました。

<http://www.pref.iwate.jp/~koucho/index.html>